

## 令和5年産麦作情報（第3号）

### 1. 気象の概要（1月16日～2月14日までの気象）

- ◆平均気温…平年と比較して、0.5℃高く推移している。
- ◆降水量は…平年と比較して少なく推移している。（平年比95.4%）
- ◆日照時間…平年と比較して少なく推移している。（平年比94.9%）

### 2. 管内麦類の生育状況

#### ▼農試情報田の調査結果

（令和5年2月9日調査）

品種	播種期 (月/日)	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉齢 (L)	葉色 (SPAD)	概況 (平年・平均と比較して)
シロガネコムギ	11/21	本年	23.4	581	5.5	49.2	<b>[気象]</b> 1月20日～2月8日まで ◆平均気温…平年より0.5℃低い ◆日照時間…少ない(平年比79%) ◆降水量……多い(平年比113%)  <b>[生育]</b> ◆草丈 11月21日播種「シロガネコムギ」、 12月1日播種大麦で高い。12月9日播種「サチホゴールド」でやや低く、12月9日播種「シロガネコムギ」、 12月9日播種「はるか二条」で低い。 ◆茎数 全品種・全作期とも少ない。 ◆葉齢 全品種・全作期とも遅れている。 ◆生育ステージ(次頁参照) ◆幼穂長及び節間長(次頁参照)
		平年	21.3	700	6.1	43.8	
		平年差(比)	110	83	-0.6	+5.4	
	12/9	本年	12.3	280	3.6	44.3	
平年		13.2	453	4.4	46.8		
平年差(比)		93	62	-0.8	-2.5		
サチホゴールド	12/1	本年	14.0	651	4.6	43.8	
		2ヶ年平均	13.2	770	5.2	43.6	
		平年比(差)	106	85	-0.6	+0.2	
	12/9	本年	12.2	406	3.8	41.4	
平年		12.5	577	4.3	43.3		
平年比(差)	98	70	-0.5	-1.9			
はるか二条	12/1	本年	13.3	726	4.4	50.1	
		2ヶ年平均	12.2	770	4.8	49.5	
		平年比(差)	109	94	-0.4	+0.6	
	12/9	本年	10.6	484	3.7	50.2	
5ヶ年平均		12.7	516	4.0	46.1		
平年比(差)	83	94	-0.3	+4.1			

品種	播種期 (月/日)	年次	幼穂形成始期 (月/日)	節間伸長開始期 (月/日)	莖立期 (月/日)	出穂期 (月/日)
シロガネコムギ	11/21	本年	1/29	未	未	未
		前年	2/2	2/23	3/1	4/2
		平年	2/2	2/17	2/20	3/31
	12/9	本年	未	未	未	未
		前年	3/1	3/8	3/13	4/9
		平年	2/23	3/4	3/8	4/8
ゴールデン サチホ	12/1	本年	未	未	未	未
		前年	2/7	3/2	3/10	3/29
		平年	2/7	2/26	3/6	3/28
	12/9	本年	未	未	未	未
		前年	2/16	3/9	3/13	4/3
		平年	2/12	3/3	3/5	4/3
二条 はるか	12/1	本年	未	未	未	未
		前年	2/7	3/1	3/11	3/28
		平年	2/7	2/24	3/4	3/28
	12/9	本年	未	未	未	未
		前年	2/17	3/7	3/12	4/2
		平年	2/13	2/28	2/24	4/1

注1) 平年値の算出方法については前頁を参照。

注2) 1個体当たり主莖及び生育旺盛な分けつ2つの計3つの幼穂を計測。節間長は根の付け根から幼穂の根本までの長さを計測。幼穂形成始期は幼穂長1mmが30%以上に達した時期を記載。節間伸長開始期は節間長5mmが80%以上に達した時期を記載。

### ▼三神管内の調査結果

(令和5年2月14, 15日調査)

調査日	場所	品種名		播種日	苗立ち数 (本/㎡)	草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	主稈 葉数 (L)	備考
2月14日	上峰	シロガネコムギ	本年	11月27日	158	24.7	615	6	・幼穂2～3mm程度 ・節間長1～2cm程度
			<sup>H24-R4</sup> 平均 (7中5)	11月29日	146	16.1	483	4.8	
			5か年比% (差)	(-2)	108	153	127	(+1.0)	
2月15日	神埼	はる風ふわり	本年	11月15日	157	22	1343	7	・幼穂1mm程度 ・節間長0.8cm程度 ・播種量7～8kgで莖数多く推移
			R3-4平均	11月18日	119	18.8	584	6.1	
			2か年比% (差)	(-3)	132	117	230	(+0.7)	
2月14日	鳥栖	はるか二条	本年	11月20日	130	20.6	848	6.1	・幼穂1mm程度 ・節間長0.5cm程度
			R2-4平均	11月22日	107	16.1	468	5.5	
			3か年比% (差)	(-2)	121	128	181	(+0.4)	

### 【概況】

- ・11月中、下旬播種の小麦は現在6～7葉期となっており、幼穂形成期～節間伸長期となっている（主莖の幼穂長1～3mm程度、節間長0.8～2.0cm程度）。生育は、前年と比較して進んでいるため、莖立ち期（節間長2cm・草丈約25cm程度）を迎えている圃場では、麦踏み止め、土入れを中心とした管理へ移行する。
- ・11月下旬播種の大麦は現在、6葉期となっており、12月上旬播種の圃場では幼穂形成期

～節間伸長期となっている（主茎の幼穂長1mm程度、節間長0.5cm程度）。11月中に播種した圃場では、生育が旺盛な傾向であるが、播種が遅れた圃場では、生育が緩やかに進んでいる。

### 3. 今後の管理

#### ◆穂肥

- 本年の生育は、麦種に係らず11月中に播種された圃場では、平年より進んでいることから、2月下旬頃に施用を行う。ただし、麦踏みと同時に施用する場合、茎立ち期前までに実施する。

なお、12月に播種された圃場では、暦に準じて2月下旬～3月上旬頃に施用する。

- ビール大麦は、品質基準（粗タンパク質：10～11.0%）を満たすため、下記表を参考に穂肥を施用する。

#### ▼サチホゴールデンの穂肥診断基準（農試）

（窒素成分 kg/10a）

		2月の降水量(mm)		
		40	80	120
3月上旬の葉色 (SPAD)	38	1.8	—	—
	40	1.2	—	—
	42	0.6	4.2	—
	44	—	3.6	—
	46	—	3.0	—
	48	—	2.4	—
	50	—	1.8	—
	52	—	1.2	—
	54	—	0.6	4.1
	56	—	—	3.5

・子実タンパク質含有率の目標値  
10%

・3月上旬の茎数  
900本/m<sup>2</sup>  
(仮定)

- 肥効を高めるため、穂肥後に土入れを行うとより効果的である。
- 動力散粒機やブロードキャスター等で全面散布を行う場合は、施肥量を基準より1～2割増やす。

#### ◆麦踏み（3葉期以降）

- 麦踏みは、土壌が乾燥した状態で行う。
- ※土壌水分が高い時に行うと土が締まり、湿害を助長するとともに排水性が悪くなる。

#### 【麦踏みの効果】

①耐寒性向上 ②根量増加 ③短稈多分げつ型への誘導 ④早立ち防止で凍霜害回避

- 麦踏みの晩限は、茎立ち期（節間長2cm・草丈約25cm程度）前までである。
- ※茎立ち期以降の麦踏みは、初期分げつが折れ、穂数の減少や倒伏抵抗性が低下するため実施しない。



### ◆土入れ（5葉期以降）

- 土入れは、土壌が乾燥した状態で行う。  
※土が湿り、土塊が大きい場合は麦が埋まり土から出てこなくなる。
- 雑草防除と排水対策もかねて、圃場の条件をみながら計画的に土入れを実施する。
- 分けつ初期に土入れが多いと、分けつを抑制することがあることから、土入れの量は、基本的に生育初期は少なめに、生育が進むにつれて量を増していく。
- 生育が遅い圃場では、生育が進んでから実施する。
- 播種量が多く苗立ち数が多い圃場では、例年より土入れを1～2回増やして過剰分けつを抑制する。※過剰分けつは、細莖化を招き倒伏に弱くなる。

#### 【土入れの効果】

①防寒 ②保肥力増大 ③倒伏防止 ④無効分けつ制御 ⑤雑草防除 ⑥排水促進

### ◆排水対策

- 本年は、播種～現在まで、積算の降水量は少ないものの、定期的に降雨が見られており一部の圃場では湿害により下葉の黄化が見られる。  
また、近年は局所的な雨が増えていることから、今後の降雨に備え、土入れに加え、まくら地の排水溝を整備し、圃場内の水を早く排水できるように整えておく。
- 特に、トラクターカルチで土入れを実施する場合には、排水不良（うね溝の停滞水が多くなる）となりやすいので、うね溝と排水口とをつなぐように徹底する。

### ◆雑草対策

- 今後、雑草の発生が目立つ圃場では生育期処理剤（莖葉散布）の散布を検討。（下記表参照）
- 【注意】  
麦踏み：麦踏前後の除草剤散布は薬害を助長するため避ける。  
土入れ：土入れを除草剤散布後に行うと、雑草の蒸散作用が抑制され有効成分の根部吸収が妨げられるので控える（特にステージの進んだ雑草の場合は十分に間隔をあげる。）

～麦圃場でよくみられる雑草（広葉）～



ミチヤナギ



トゲミノキツネノボタン



アメリカフウロ



ノミノフスマ



イヌタデ



ヤエムグラ



カラスノエンドウ



カズノ生育当初は、両雑草とも根の色が白色だが、生育が進むとカズノコグサの根は「白色」で、スズメノテッポウの根は「赤褐色」となるため判別可能。

(農薬メーカー資料から抜粋)

▼生育期除草剤使用例

農薬名	有効な雑草	使用量	希釈水量	使用時期	総使用回数
		10a当たり			
バサグラン液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	100~200ml	70~100L	雑草 3~6 葉期 小麦：収穫 45 日前まで 大麦：収穫 90 日前まで	1 回
アクチノール乳剤	一年生広葉 ・カラスノエンドウ ・ヤエムグラ ・タデ類	100~200ml	70~100L	雑草生育初期、 麦穂ばらみ期まで	2 回
ハーモニー 75D F 水和剤	イネ科雑草 ・スズメノテッポウ ・カズノコグサ  広葉雑草 ・ミチヤナギ ・タデ類 ・キツネノボタン ・ヤエムグラ ・ナズナ ・ハコベ	5~10g	100L	麦 1 葉期~節間伸長前 スズメノテッポウ：5 葉期まで カズノコグサ：1~3 葉期まで	1 回
<p>ハーモニー75D F 水和剤使用上の注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・播種後にハーモニー細粒剤 F を散布した圃場は使用不可</li> <li>・薬害が生じ易いので周辺作物に注意</li> <li>・使用器具の洗浄をよくし、他作物との併用はしない</li> <li>・スズメノコグサ、カラスノエンドウには効果が弱い(抑制するが枯死しない)</li> <li>・サーファクタント 30 との併用を推奨</li> </ul>					

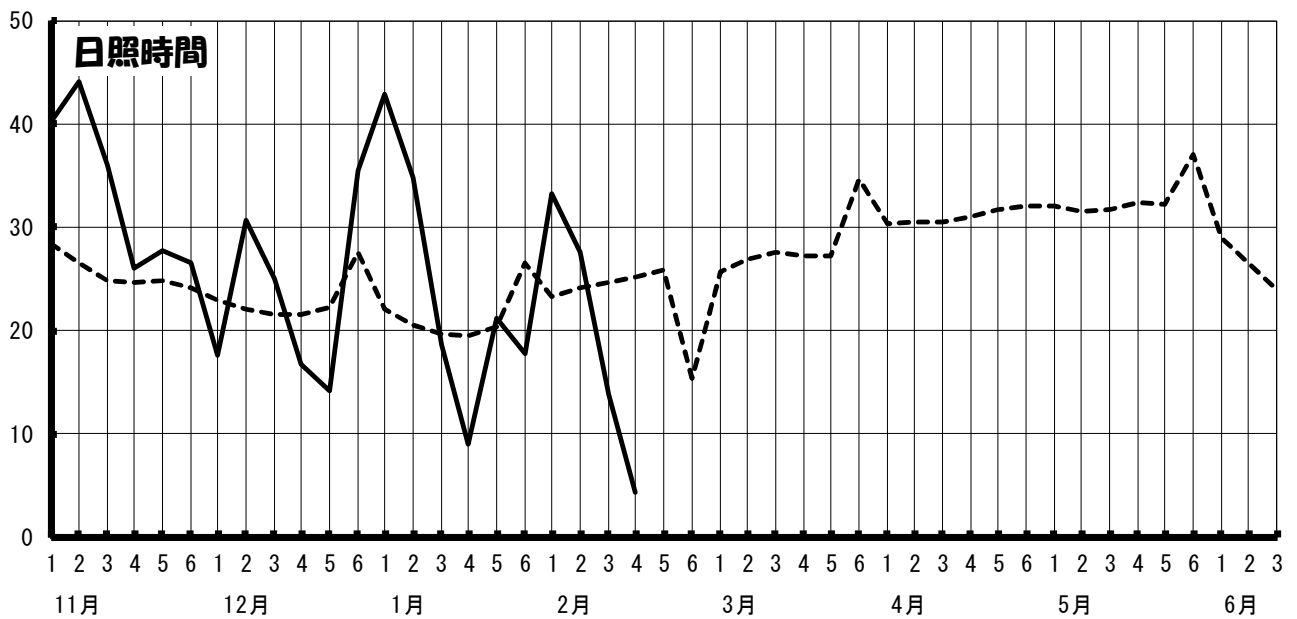
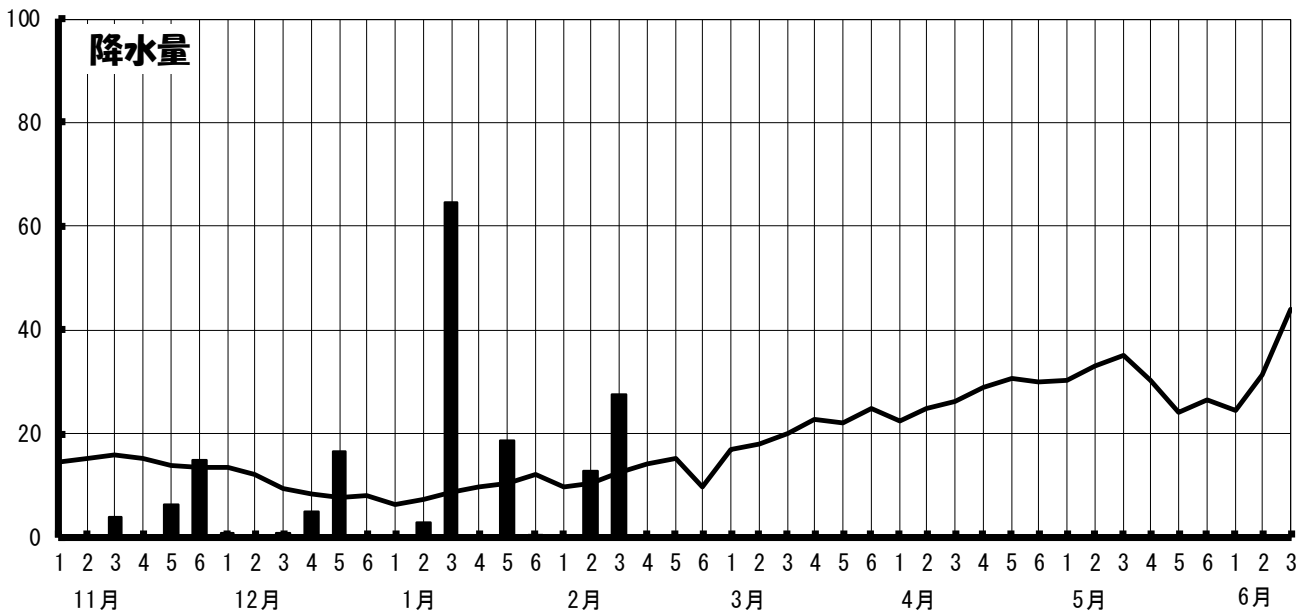
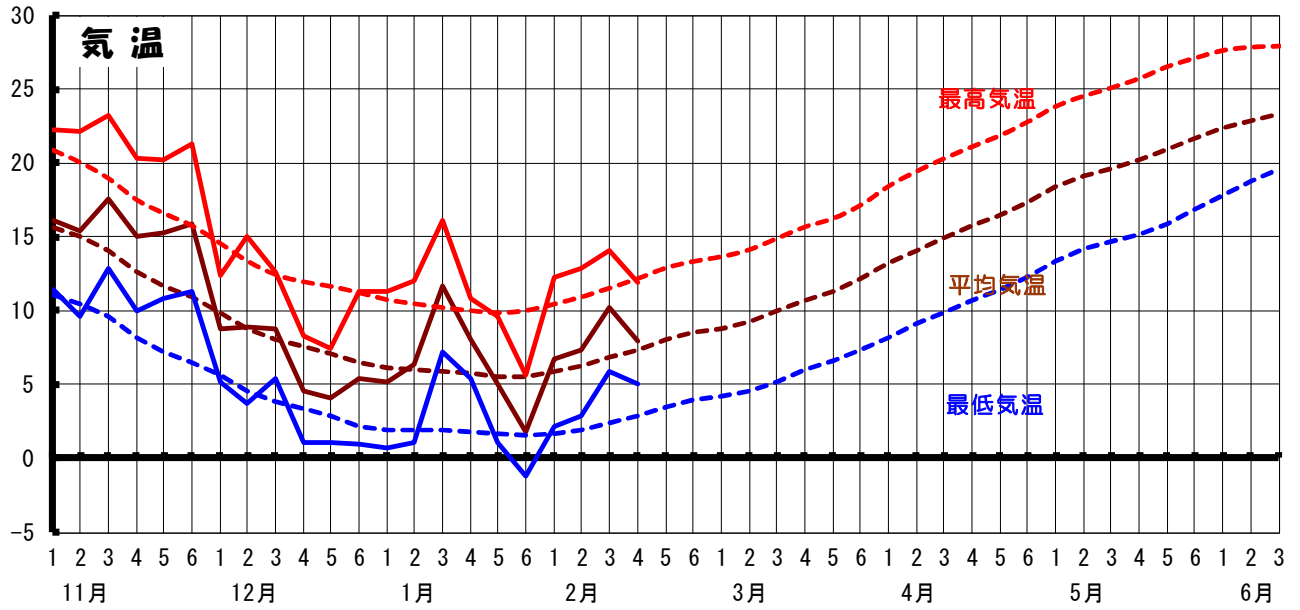
抵抗性をもつ場合は効果が劣る場合がある。連用施用には注意する。

多発田では時期を逃さないように注意!

# R5年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値（佐賀）

三神農業振興センター



グラフ中の点線は平年値